

Umbrellaコンポーネントバージョン3.0アップデートについて

内容

[はじめに](#)

[目的](#)

[リソース](#)

はじめに

このドキュメントでは、Umbrellaコンポーネントバージョン3.0のアップデートについて説明します。ただし、「許可リスト」のアップデートが必要になる場合があります。

目的

Umbrellaは最近、ローミングクライアントをバージョン3.0にアップグレードしました。これには、多数の根本的な更新が含まれています。これらのアップデートの1つに、使用される主要コンポーネントの1つに名前の変更が含まれており、その結果、組織はファイアウォールまたはアンチウイルスの許可リストをアップデートする必要がある可能性があります。

「[付録A：ステータス、状態、および機能](#)」の「詳細」の項に従い、すべての機能を確実に使用するには、次のプロセスをエンドポイントのファイアウォール/ウイルス対策プログラムの「許可リスト」に追加する必要があります。

- ERCSservice.exe
- ERCInterface.exe (GUIがインストールされている場合)
- dnscryptproxy.exe (これはWindows用Umbrella Roamingクライアントのバージョン3.0で新しく、dnscrypt-proxyに代わるものです)

これを実現するプロセスは、エンドポイントソフトウェアによって異なります。プログラムを許可リスト(「例外リスト」または「ホワイトリスト」とも呼ばれます)に追加する方法については、エンドポイントソフトウェアのマニュアルを参照してください。

リソース

これは、例外を追加するためのアンチウイルス/ファイアウォールソフトウェア手順のリンクのリストです。これらは外部リソースへの外部リンクであり、シスコの制御外であり、いつでも変更できます。これらのアプリケーションに関するご質問は、各製品のサポートチームにお問い合わせください。

- [ソフォス](#)
- [McAfeeファイアウォール](#)

- [BitDefender](#)
- [Symantecエンドポイントセキュリティ](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。